

# ☆☆図書室だより☆☆ ☆第48号☆

## ☆☆- 図書委員会よりお知らせ - ☆

世界情勢や自然災害の厳しい中、復活祭を迎えられましたことを心からおよろこび申し上げます。おすすめしたい本と併せて新しく入った本の紹介をさせていただきます。



### ご紹介



阿佐ヶ谷教会 伝道師 太田好則

### 『さんびかものがたりⅢ 主の復活、ハレルヤ レントとイースターの歌』

川端純四郎 著 日本キリスト教団出版局 [茶 196.5 Ka 3]

‘ハレルヤ、ハレルヤ（たたかいは終わり）’

いつも賛美歌がらみですみません。イースターに寄せて、ということなので代表的な賛美歌「ハレルヤ、たたかいは終わり、21-328」の「そもそも」を知りたいと思いました。前から不思議に思っていたんですよね。この楽譜の右肩にパレストリーナ（※1）と書いてあることが。様式感が明らかにパレストリーナの時代ものではありません。実はパレストリーナの曲の、ほんの最初の部分だけをヒントにしてウィリアム・モンク（21-218 日暮れてやみはせまり～主よともに宿りませ、の作曲者として有名）（※2）が書き上げた賛美歌だったのです。初めて知りました。私たちが使っている讚美歌1編、21のかなり多くが英国の賛美歌です。大陸ヨーロッパでは自由詩による賛美歌が生まれにくい事情がありました。ルター派はカトリックに近く、ミサの中で会衆が歌う部分は少ないし、カルヴァンは詩編以外を歌うことを禁じました。そのあたりの経緯もちょっと解説してあります。

（※1）Giovanni Pierluigi da Palestrina（伊）1525-1594

（※2）William Henry Monk（英）1823-1889

《ご寄贈書》

書名

著者名・出版社・発行年など

信仰生活ガイド 老いと信仰

山口紀子 編

日本キリスト  
教団出版局

2024.6.25

[黒 767.1 Ni]

《購入書》

書名

信仰生活ガイド 苦しみの意味

柏木哲夫 編

日本キリスト  
教団出版局

2024.8.23

[青 198.34 Ka]

信仰生活ガイド 祈りのレッスン

柳下明子 編

日本キリスト  
教団出版局

2024.5.20

[茶 198.36 Ya]

闇のなかに光は輝き クリスマスの黙想24

平野克己 編

日本キリスト  
教団出版局

2024.10.25

[茶 196.3 Hi]

メソジスト入門 ウェスレーから現代まで

W・J・エイブラハム著

教文館

2024.8.20

[茶 198.7 A]

加納和寛 赤松真希 訳

VTJ旧約聖書注解 列王記上 12-16章

山我哲雄 著

日本キリスト  
教団出版局

2024.10.25

[黄 193.25 Ya]



## 『聖書の祈り31 主よ、祈りを教えてください』



大島 力 川崎公平 著 日本キリスト教団出版局〔緑 194 La〕

キリスト者にとって祈りは身近なものでありますが、苦しみが大きく余裕のない時に祈りを忘れたり「神様、なぜですか」と問うてみたり、祈り方がわからなくなることはないでしょうか。この本は旧約聖書の16の祈りを大島力牧師、新約聖書の15の祈りを川崎公平牧師が担当され、先ず聖書箇所を挙げ、丁寧な黙想、そして最後に特大の太文字で短く素朴な祈りが示されます。それは私たちの日々の暮らしの中に存在する悲しみや嘆きや怒りや賛美を掬い上げるような祈りです。お仕事や家庭生活で忙しい中でも短く祈れるように、導いてくれます。たとえ祈れない状況にあっても、祈る者へと立ち直るために教会の仲間の祈りがあるのだと教えてくれます。主は私たちに必要なものを既にご存知であるけれども、そうであるからこそ、私たちをよく知っていてくださる主のそばで祈りたいと思います。この本を手にとって短い祈りに目を通すだけでも、気づきや慰めが得られそうです。

(神学生 K.K)



## 『イースター あたらしいいのち』

加藤潤子 絵・文 いのちのことば社 〔黒 369.31 Ya〕

これは絵本です。絵も文もやさしく、ほっこりとした空気感が伝わってきます。十字架の死の悲しみから復活の喜びへ、聖書の世界に誘われます。いちばんはじめのイースターの日のお話です。

絵をよく見てみると、復活されたイエス様の手と足には、十字架の釘の痕が描かれています。主イエスの愛が生き生きと伝わってきます。

イースターの出来事は、今を生きる私たちに与えられている恵みなのです。小さいお子さまから、大人の方にも読まれて味わい深い絵本です。

(地の塩会 M.N)



## 『かさをささないシランさん』

谷川俊太郎 アムネスティ・インターナショナル 作 いせひろこ 絵 理論社

これから世界は民主主義の名のもとにじわじわと不寛容になり、多様性への反動の時代を迎えそうです。そしてこの社会でもSNS等を利用した攻撃性が増してゆくことでしょう。その先に少数者や社会的弱者が個別に切り崩され犠牲になる姿を想像することは難しくありません。ビールを片手に戦場で飢えに苦しむ子どもたちの姿をテレビで眺めているシランさん。罪もないのに牢屋に入れられている人がいることを知っていながら「とおいがいこくのひとだ、ぼくにはかんけいない」というシランさん。私は知らない、私には関係ない、最初は誰もが問題を他者化し、気付いたときには抗いようのない渦の中に飲み込まれているのです。

『かさをささないシランさん』は、昨年亡くなられた、現代を代表する詩人谷川俊太郎さんとアムネスティ・インターナショナルによって35年前に出版されました。今、改めて読み返したい作品です。

(信友会 M.S)